

第 2 章 高齢者を取り巻く現状

1. 人口・認定率等の推移
2. 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査、高齢者等実態調査の結果

1. 人口・認定率等の推移

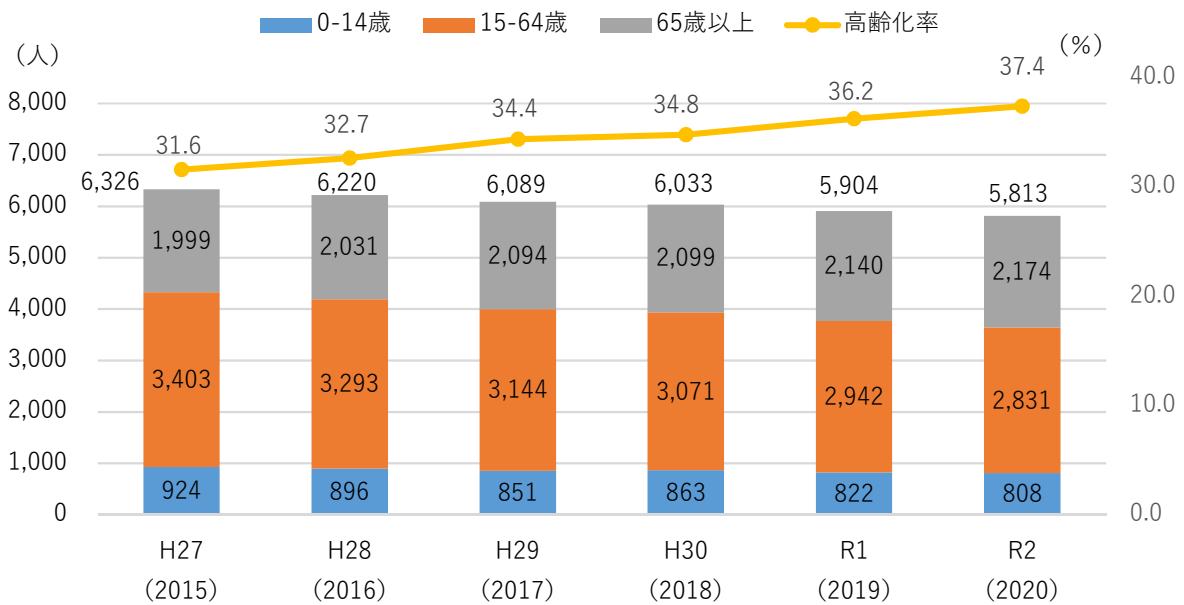
① 人口

知名町の人口は、平成27年の6,326人から減少してきており、令和2年には8.1%減の5,813人となっています。

人口構成別でみると、平成27年と比較し年少人口（0-14歳）が12.6%減の808人、生産年齢人口（15-64歳）が16.8%減の2,831人となっています。そのうち、高齢者人口（65歳以上）は増加傾向にあり、平成27年と比較し8.8%増の2,174人となっています。さらに、前期高齢者及び後期高齢者別でみると、平成27年と比較し前期高齢者（65-74歳）が34.5%増の1,076人、後期高齢者（75歳以上）が8.4%減の1,098人となっています。

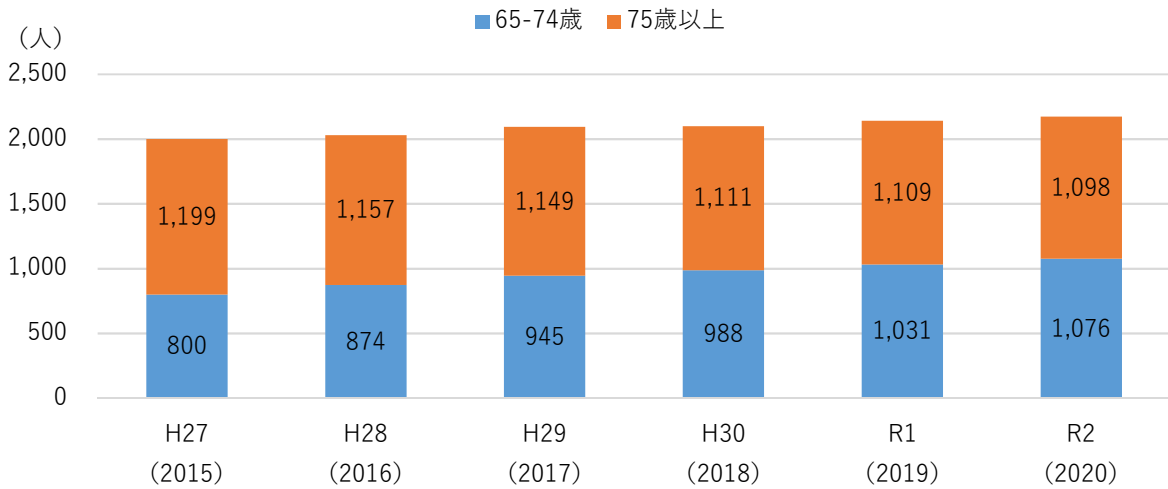
また、高齢化率は、総人口の減少と高齢者数の増加に伴い、平成27年と比較して5.8ポイント増加しています。

総人口と高齢化率の推移



【時点】 各年10月1日 【出典】 住民基本台帳

高齢者数の推移

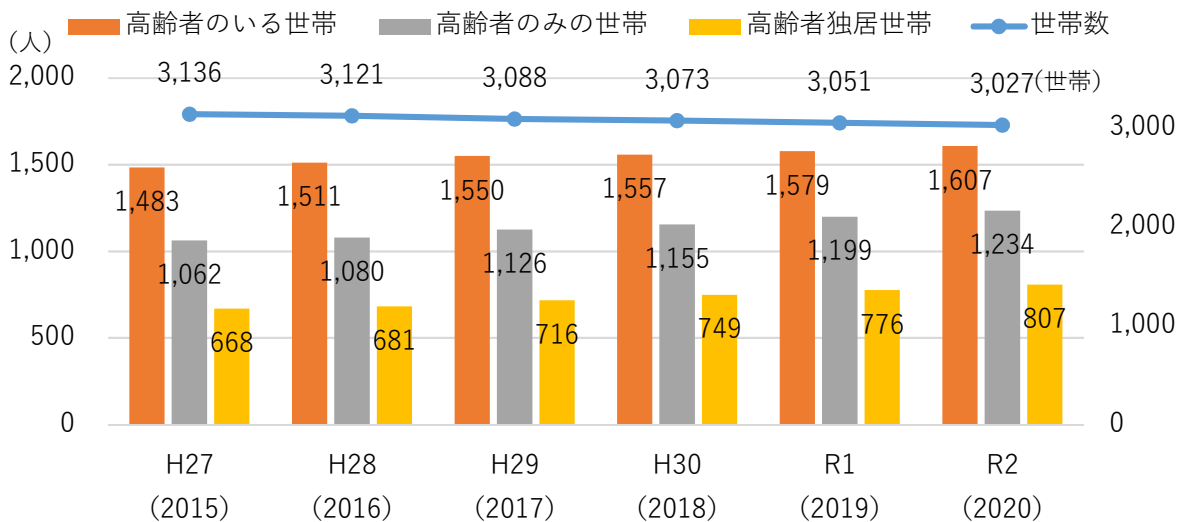


【時点】各年10月1日 【出典】住民基本台帳

② 世帯数

世帯数は徐々に減少しているものの、高齢者のいる世帯は増加傾向にあり、平成27年と比較して8.4%増の1,607世帯となっています。そのうち、平成27年と比較して高齢者のみの世帯は16.2%増の1,234世帯、高齢者独居世帯は20.8%増の807世帯となっています。

世帯数の推移



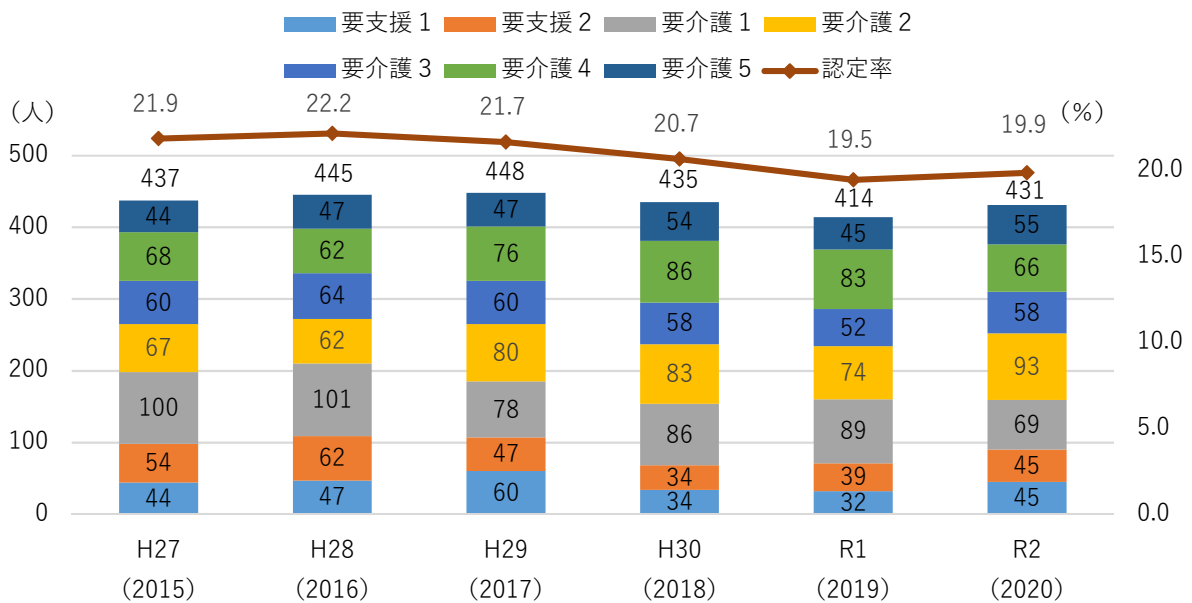
【時点】各年10月1日 【出典】住民基本台帳

③ 要支援・要介護認定者数及び認定率

認定者数及び認定率は、平成28年から減少傾向にありましたが、令和2年には増加に転じました。このうち、平成27年と比較して要介護1の認定者数が31.0%の減、要介護2の認定者数が38.8%の増となっています。

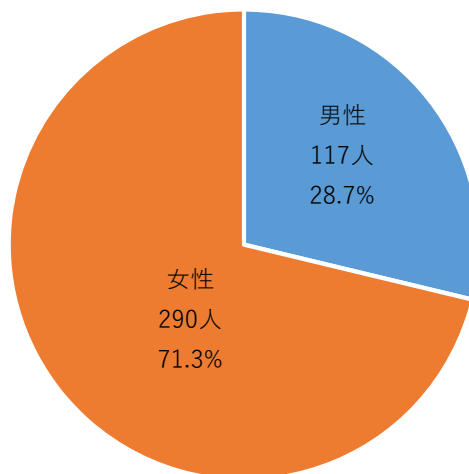
また、性別別認定者数の割合では、男性が28.7%、女性が72.3%となっています。さらに年齢階級別認定者数の割合では、75歳以上が91.6%を占めています。

認定者数・認定率の推移



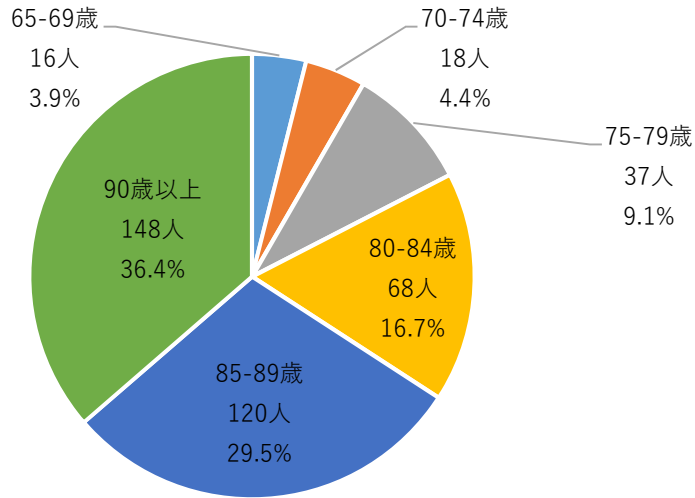
【出典】平成27-30年度：厚生労働省「介護保険事業状況報告（年報）」、令和元-2年度：「介護保険事業状況報告（3月月報）」

性別別認定者数



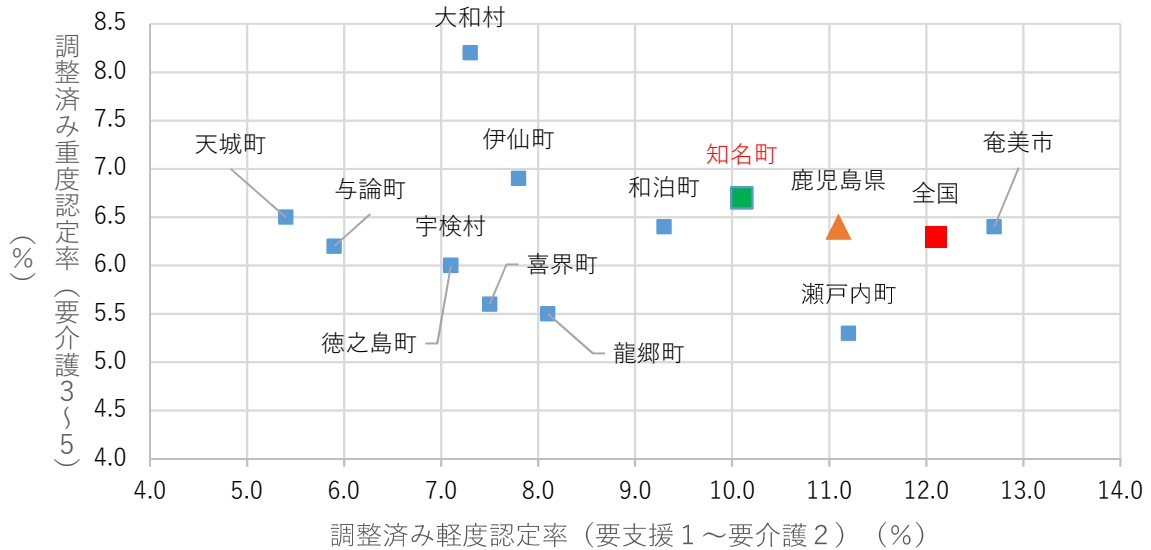
【出典】厚生労働省「介護保険事業状況報告」9月月報

年齢階級別認定者数



【出典】厚生労働省「介護保険事業状況報告」9月月報

調整済み重度認定率・調整済み軽度認定率 ※1

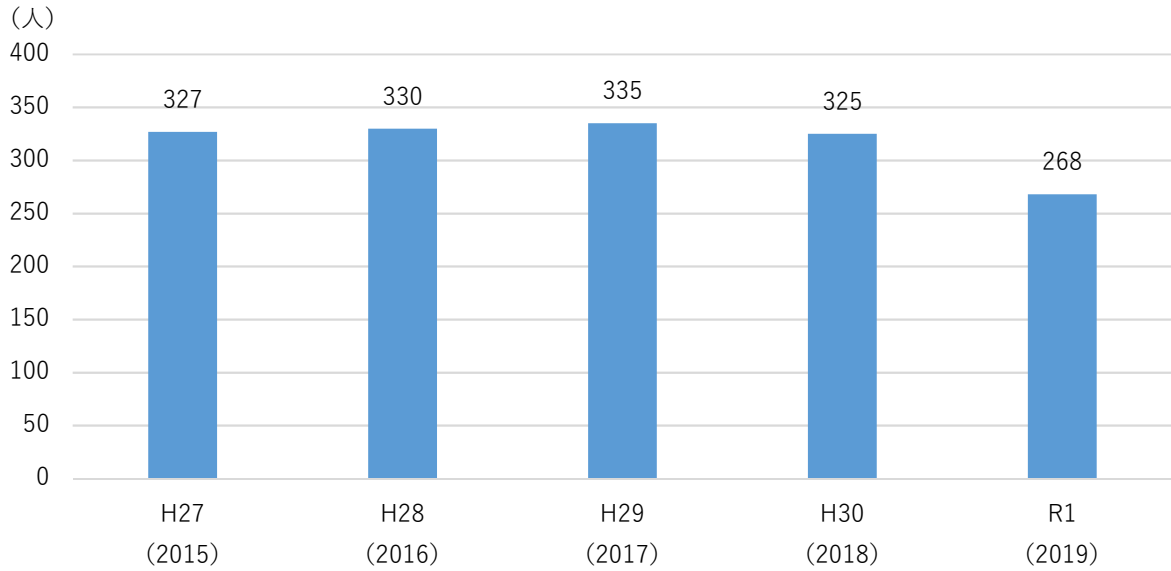


【時点】厚生労働省「介護保険事業状況報告」年報（令和元年度のみ「介護保険事業状況報告」月報）
および総務省「住民基本台帳人口・世帯数」

※1 「調整済み認定率」とは、認定率の多寡に大きな影響を及ぼす、「第1号被保険者の性・年齢構成」の影響を除外した認定率で、実際の認定率とは異なります。

④ 認知症高齢者の状況

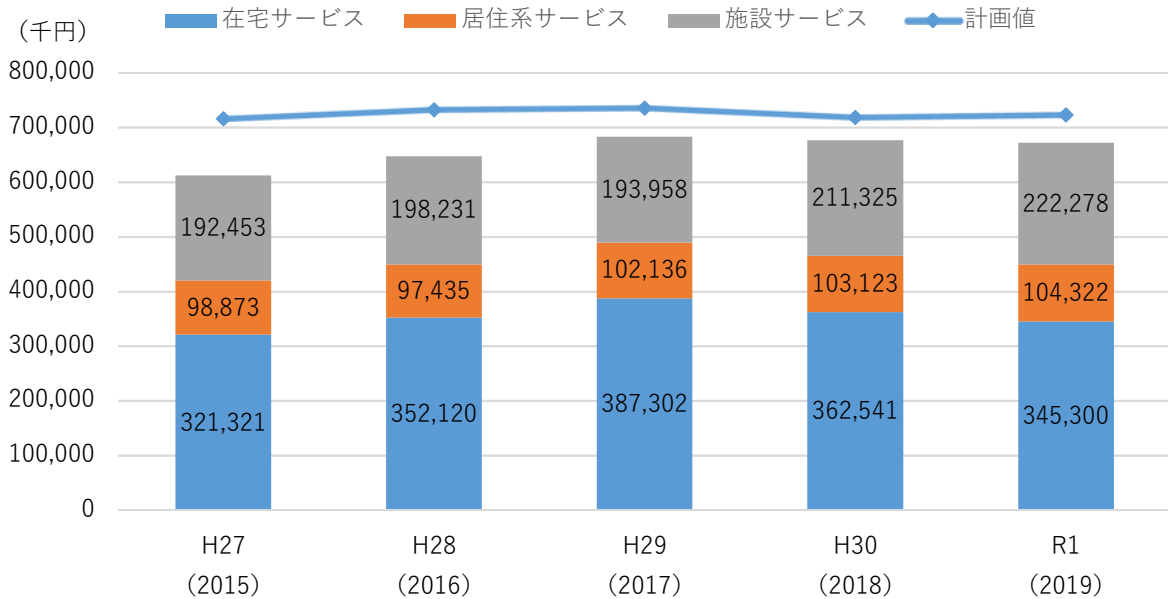
認知症高齢者(認知症高齢者日常生活自立度Ⅱ以上)は、平成27年以降横ばいでしたが、令和元年は27年と比較し18.0%の減となっています。



⑤ 介護給付費

介護給付費は、平成29年以降横ばいとなっています。平成27年と比較して在宅サービス費は7.5%増の345,300千円、居住系サービス費は5.5%増の104,322千円、施設サービス費は15.5%増の222,278千円となっており、3サービス合計で9.7%増の671,899千円となっています。

介護給付費の推移



【出典】厚生労働省「介護保険事業状況報告」年報（令和元年度のみ「介護保険事業状況報告」月報）

2. 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査、高齢者等実態調査の結果

(1) 調査の概要

① 調査の目的

令和3年度から5年度までを計画期間とする高齢者保健福祉計画及び第8期介護保険事業計画を策定するにあたり、高齢者等の実態や意識・意向を調査・分析するための基礎資料とするものです。

② 調査時期 令和元年12月12日～令和2年2月13日

③ 調査の対象者及び方法

調査の種類	一般高齢者	在宅要介護者	若年者
対象者	要介護・要支援認定を受けていない65歳以上の者	要介護・要支援認定者で介護保険施設等に入所していない者	要介護・要支援認定を受けていない40歳から64歳までの者
対象者の抽出	無作為に抽出	全員	無作為に抽出
調査方法	発送：郵送 回収：民生委員（一部直接持込み）	発送・回収ともに居宅介護支援事業所の介護支援専門員及び地域包括支援センターの職員ほか	発送：郵送 回収：民生委員（一部直接持込み）

④ 調査数及び回収率

調査の種類	若年者	一般高齢者	在宅要介護者
配布数	400件	400件	232件
回収数	336件	388件	228件
回収率	84.0%	97.0%	98.3%

⑤ その他

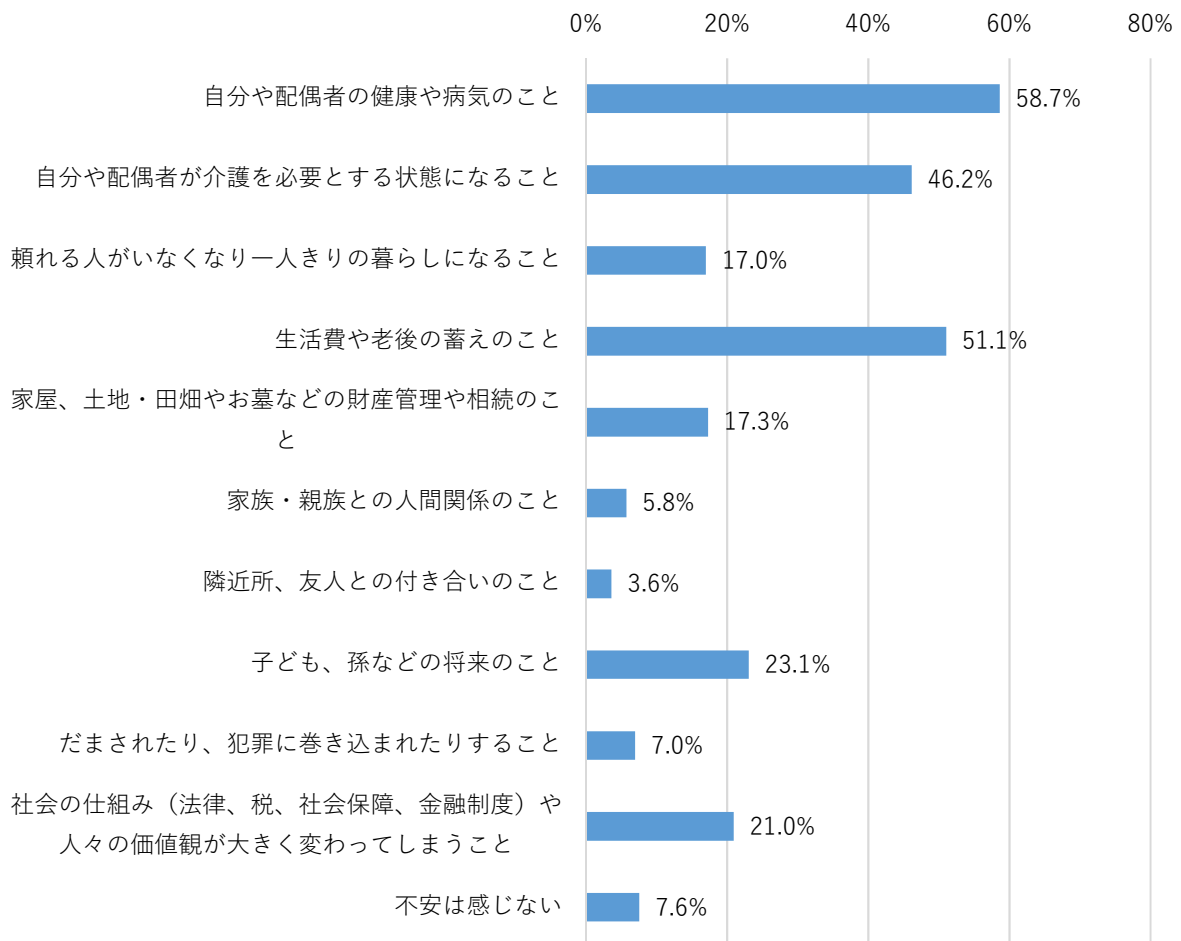
・回答は各質問の回答者数（N）を基数とした百分率（%）で示していますが、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100.0%にならない場合があります。

・複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方をしているため、回答比率の合計が100.0%を超える場合があります。

(2) 若年者調査

① 将来の生活の不安について

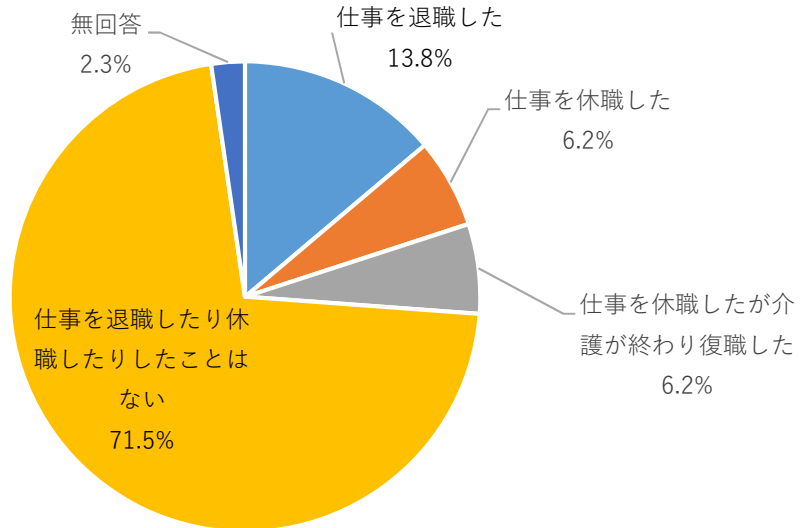
将来の生活の不安について、「自分や配偶者の健康や病気のこと」の割合が58.7%と最も高く、次いで「生活費や老後の備えのこと」の割合が51.1%、「自分や配偶者が介護を必要とする状態になること」の割合が46.2%となっています。(回答者数=329)



② 家族の介護について

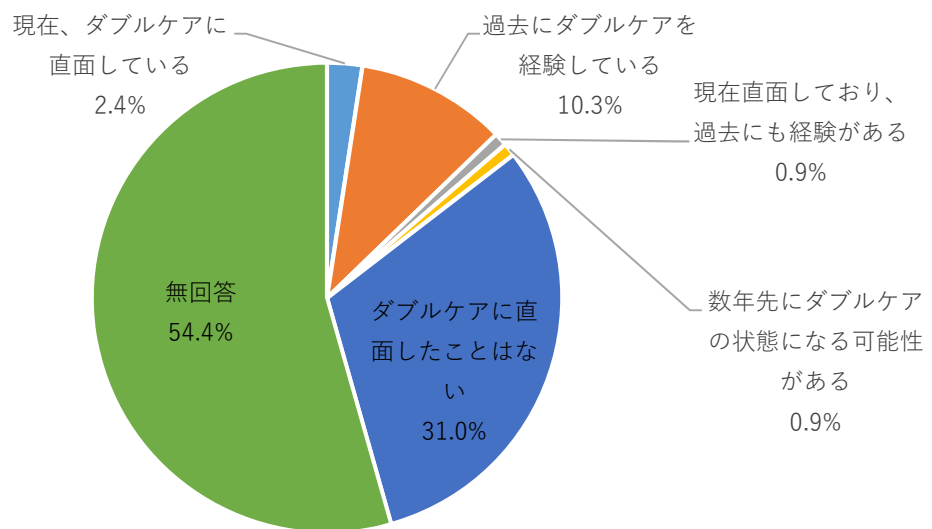
家族（両親や配偶者など）の介護の経験がある方で、介護を理由に仕事を退職したり、休職したりしたことがあるかについて、「仕事を退職したり休職したりしたことはない」の割合が71.5%と最も高く、次いで「仕事を退職した」の割合が13.8%となっています。

（回答者数=130）



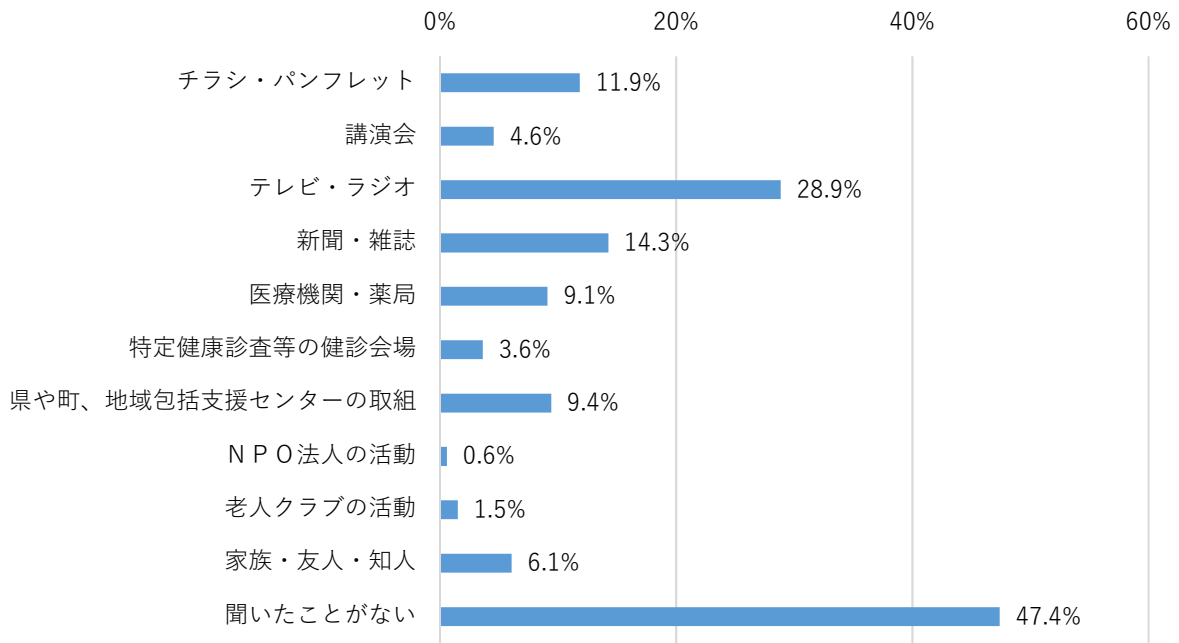
③ ダブルケアについて

子育てと親の介護が同時進行となるダブルケアについて、無回答を除いて、「ダブルケアに直面したことはない」の割合が31.0%と最も高く、次いで「過去にダブルケアを経験している」の割合が10.3%となっています。（回答者数=329）

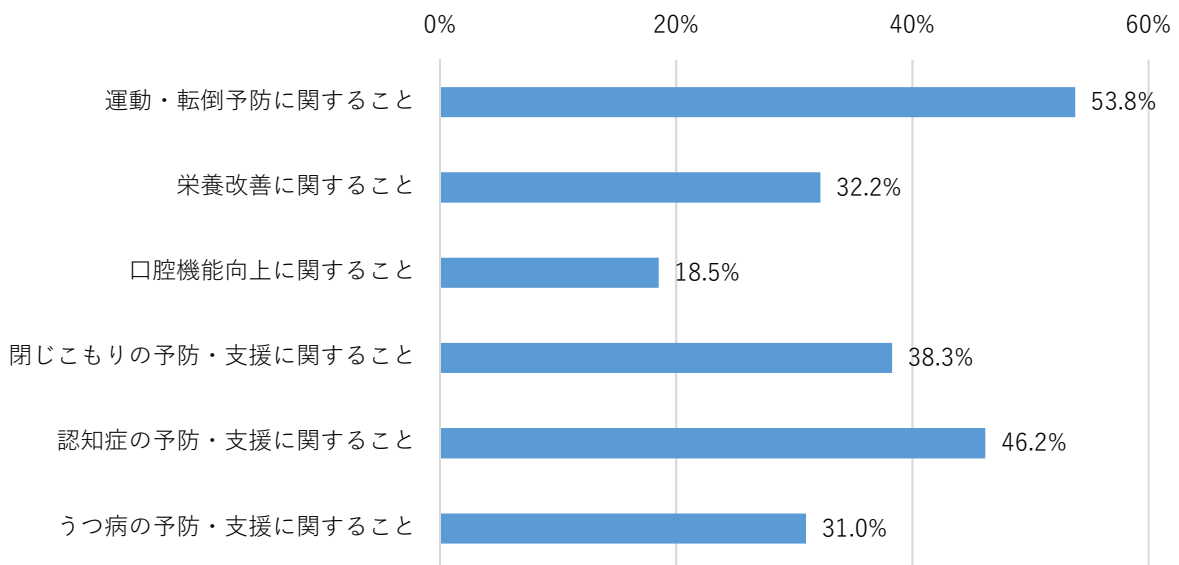


④ 介護予防について

ア 「介護予防」という言葉を聞いたことがありますかについて、「聞いたことがない」の割合が47.4%と最も高く、次いで「テレビ・ラジオ」の割合が28.9%、「新聞・雑誌」の割合が14.3%となっています。(回答者=329)

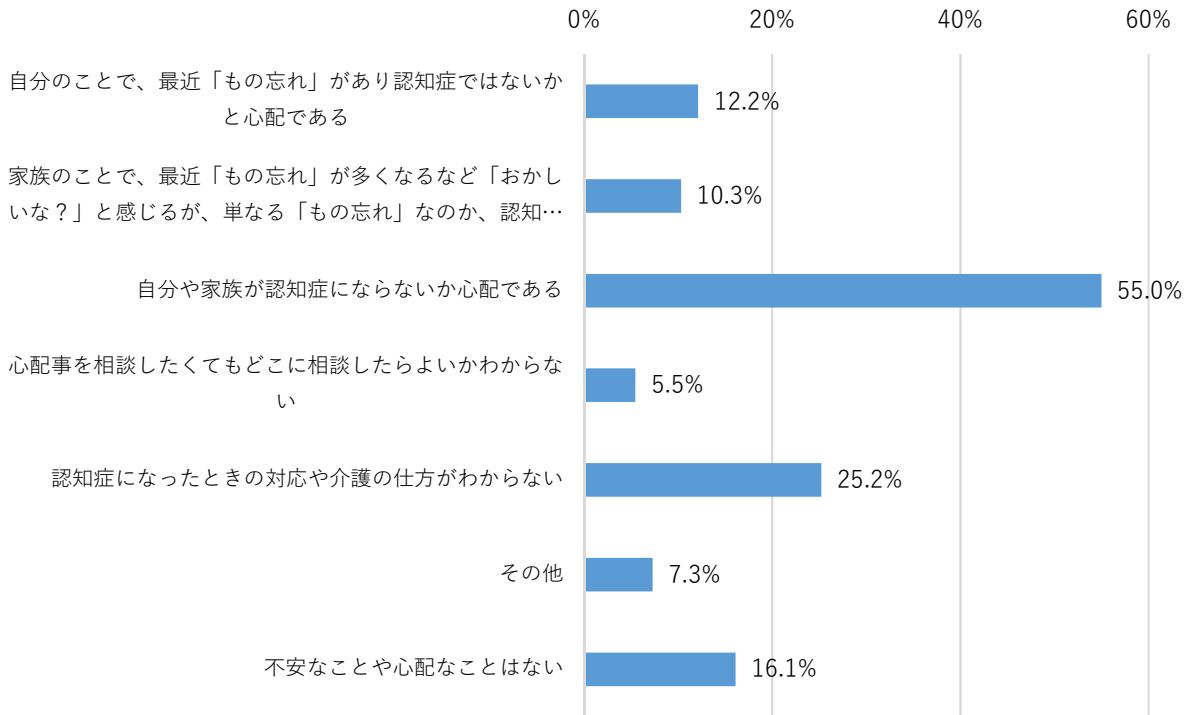


イ 介護予防のための取組で、県や町においてどのような取組に力を入れてほしいかについて、「運動・転倒予防に関すること」の割合が53.8%と最も高く、次いで「認知症の予防・支援に関すること」の割合が46.2%、「閉じこもりの予防・支援に関すること」が38.3%となっています。(回答者=329)

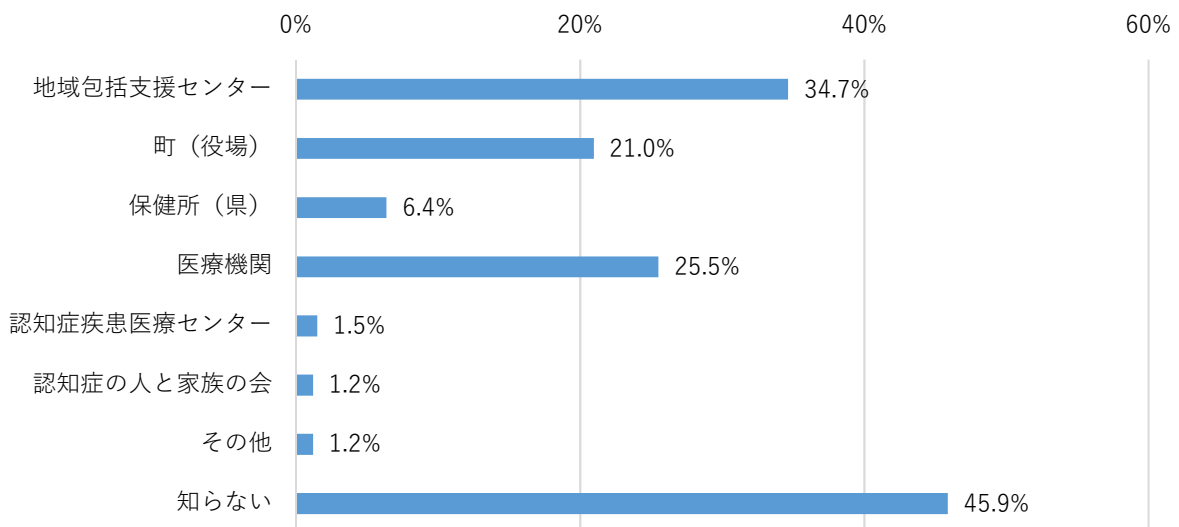


⑤ 認知症について

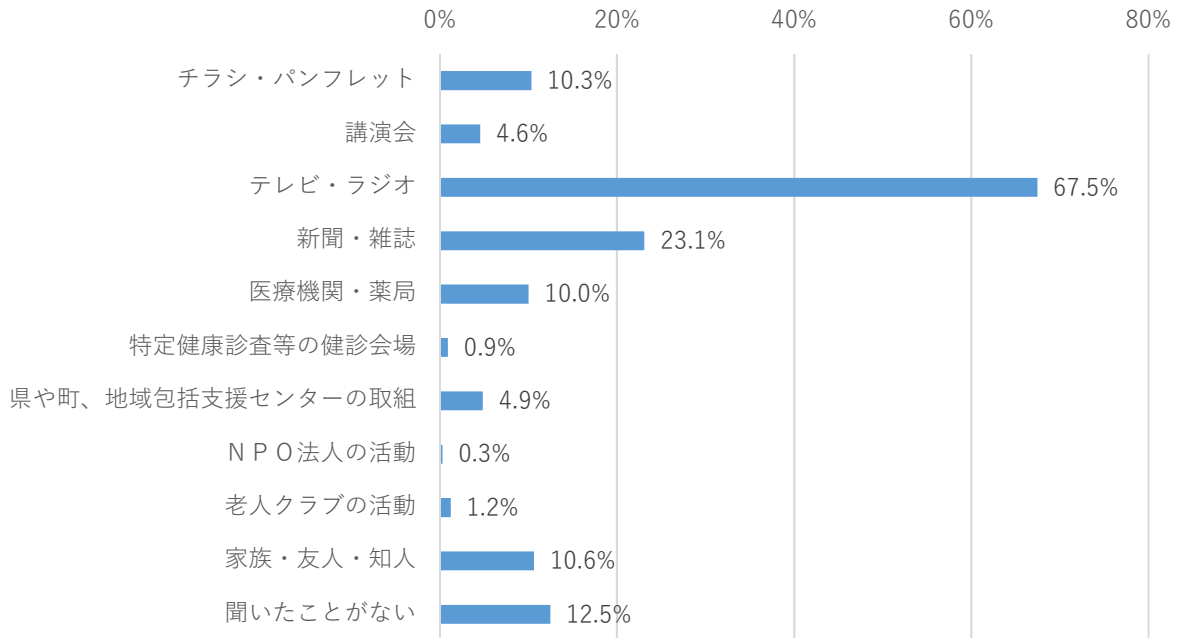
ア 認知症についての不安や心配なことはどのようなことかについて、「自分や家族が認知症にならないか心配である」の割合が 55.0%と最も高く、次いで「認知症になったときの対応や介護の仕方がわからない」が 25.2%となっています。(回答者=329)



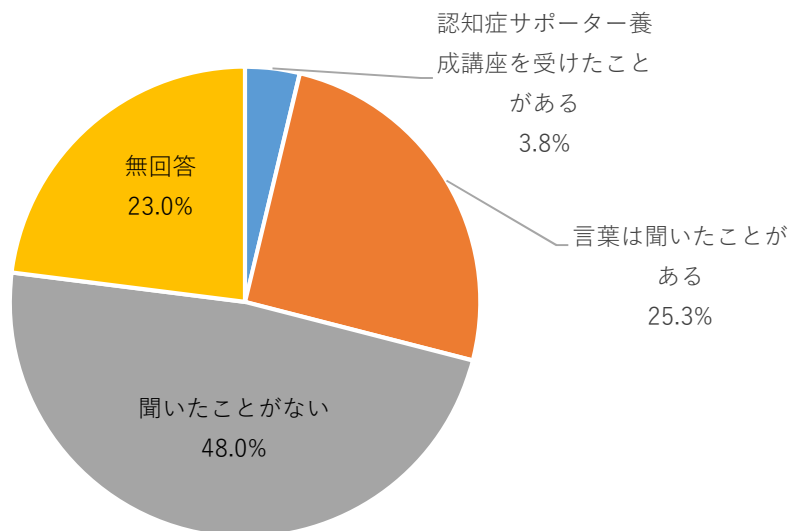
イ 認知症の相談窓口を知っていますかについて、「知らない」が 45.9%と最も高く、次いで、「地域包括支援センター」の割合が 34.7%、「医療機関」の割合が 25.5%となっています。(回答者=329)



ウ 「若年性認知症」という言葉を聞いたことがある場合、どのような機会・場所で知りましたかについて、「テレビ・ラジオ」の割合が67.5%と最も高く、次いで「新聞・雑誌」の割合が23.1%、「聞いたことがない」の割合が12.5%となっています。(回答者=329)

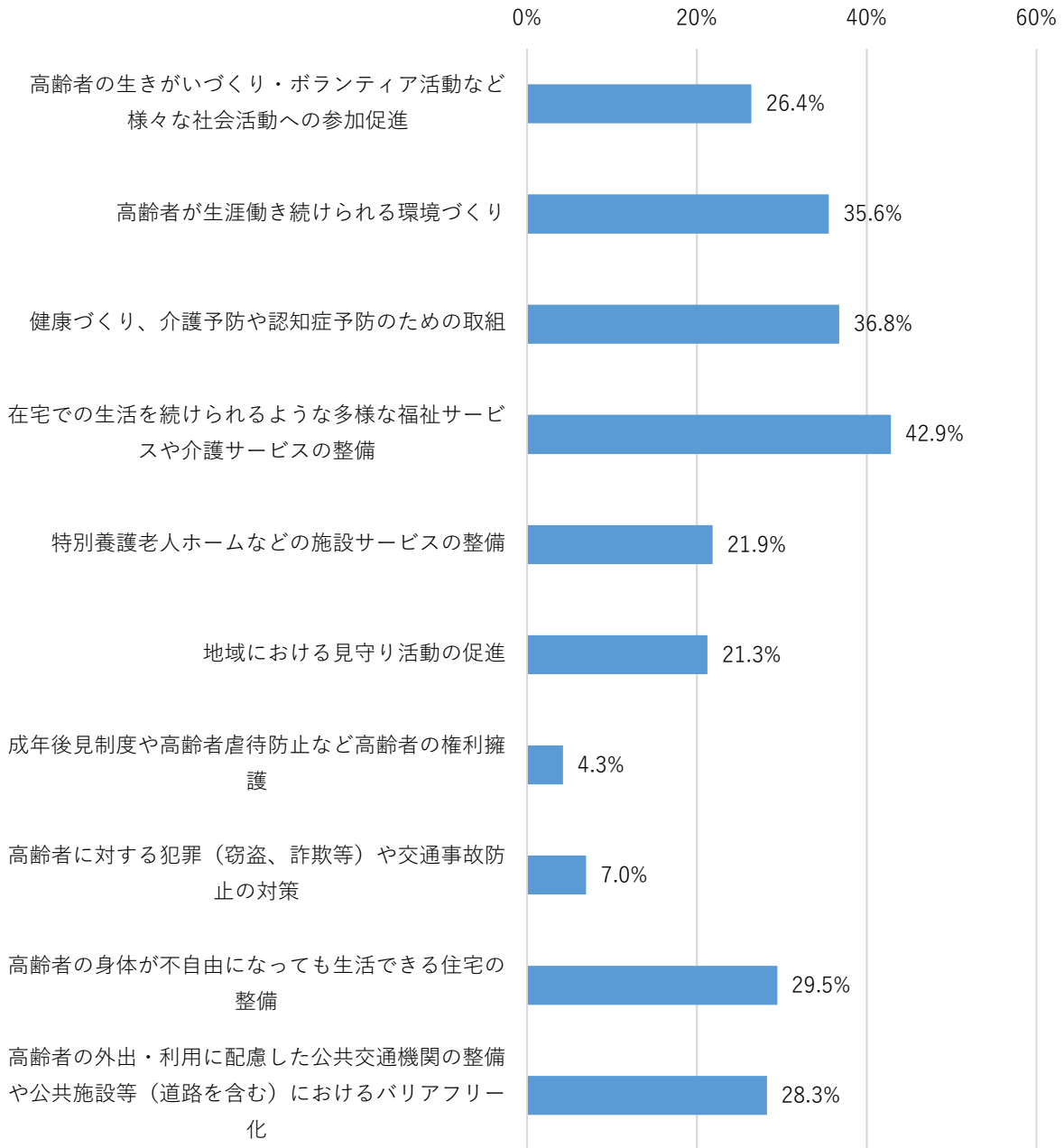


エ 認知症サポーターについて知っていますかについて、無回答を除いて、「聞いたことがない」の割合が48.0%と最も高く、次いで「言葉は聞いたことがある」の割合が25.3%、「認知症サポーター養成講座を受けたことがある」の割合が3.8%となっています。(回答者=329)



⑥ 高齢社会への取組について

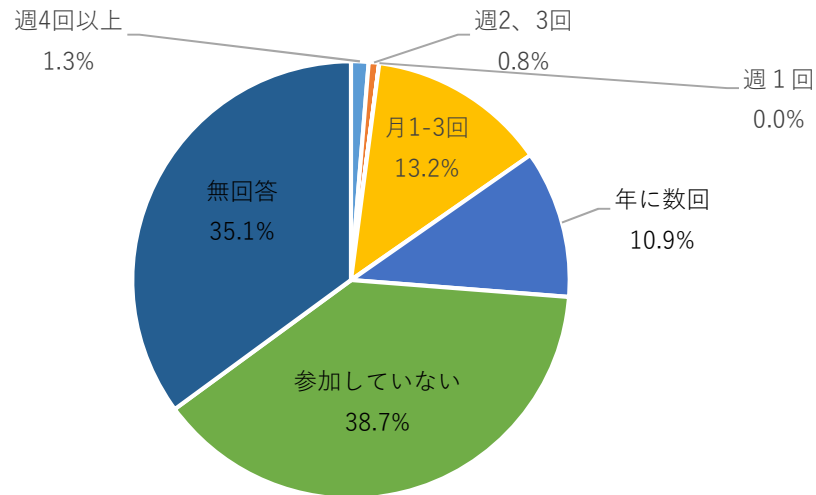
高齢者が住み慣れた場所で安心して暮らしていける地域づくりのために県や町が力を入れるべきことについて、「在宅での生活を続けられるような多様な福祉サービスや介護サービスの整備」が42.9%と最も高い割合でした。



(3) 一般高齢者

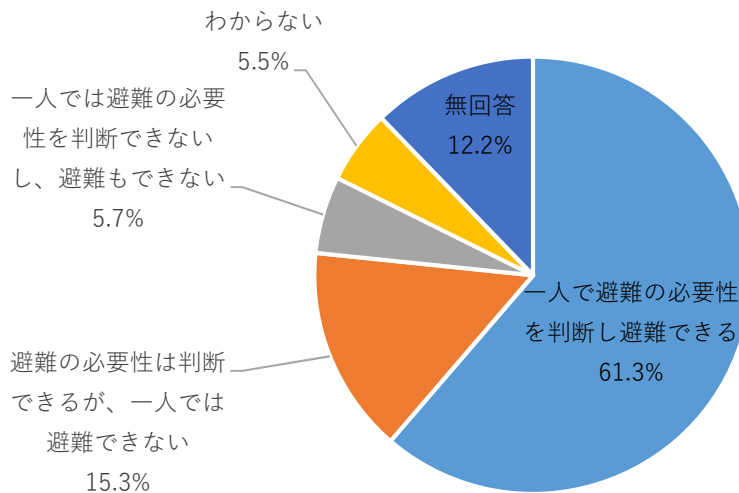
① 地域での活動

いきいき教室・足腰シャンシャン教室などの介護予防のための通いの場について、「参加していない」の割合が38.7%と最も高く、次いで「月1-3回」の割合が13.2%、「年に数回」の割合が10.9%となっています。(回答者数=385)



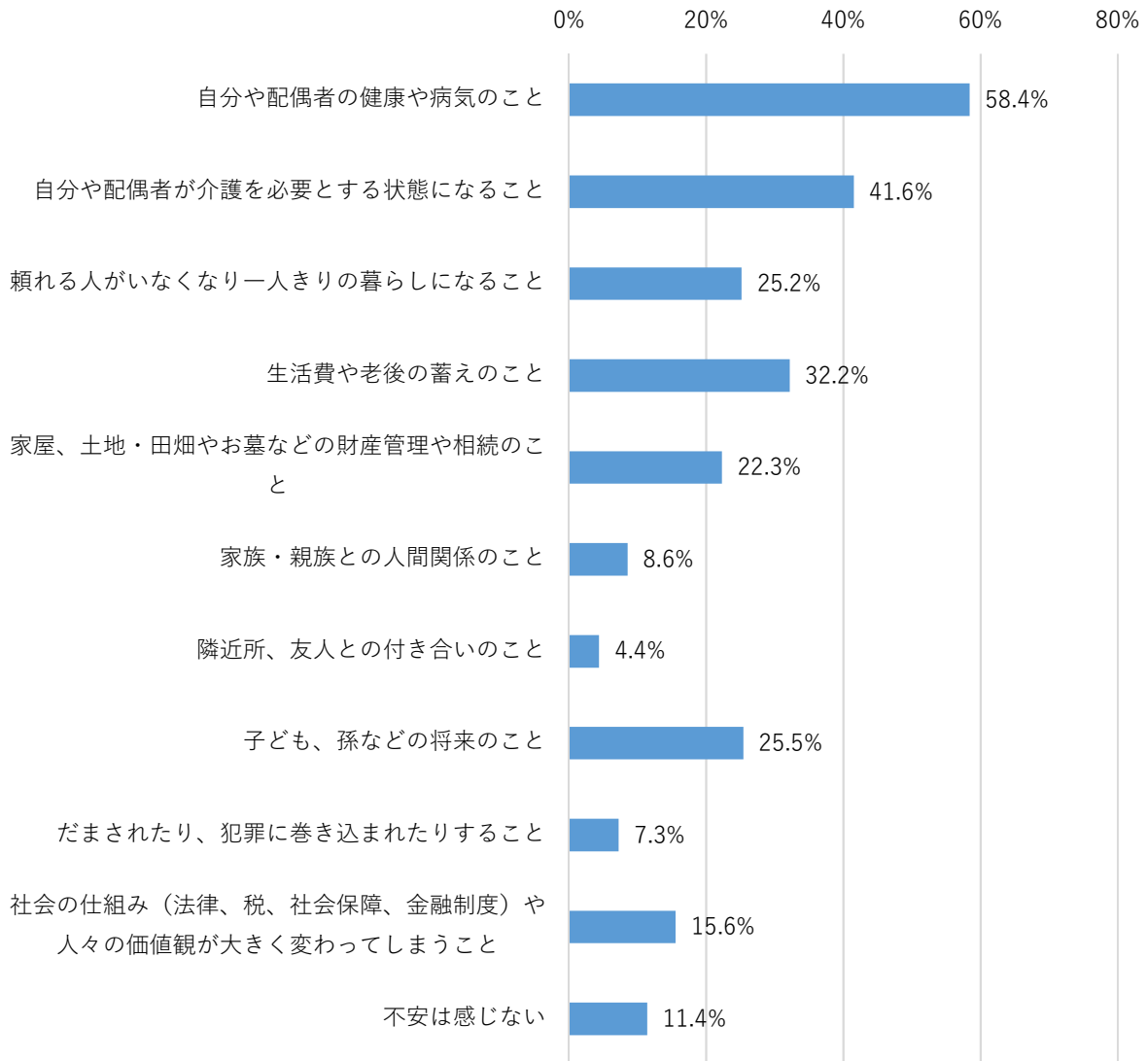
② 安全・安心な暮らし

災害時(台風や地震等)に、一人で避難の必要性を判断し、避難場所まで避難することができますかについて、「一人で避難の必要性を判断し避難できる」の割合が61.3%と最も高く、次いで「避難の必要性は判断できるが、一人では避難できない」の割合が15.3%、「一人では避難の必要性を判断できないし、避難もできない」の割合が5.7%、「わからない」の割合が5.5%、「無回答」の割合が12.2%となっています。(回答者数=385)



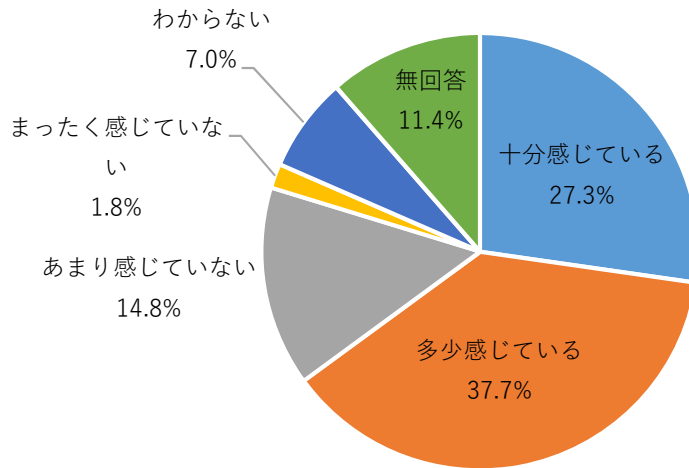
③ 将来の生活の不安

将来の生活の不安について、「自分や配偶者の健康や病気のこと」の割合が58.4%と最も高く、次いで「自分や配偶者が介護を必要とする状態になること」の割合が41.6%、「生活費や老後の蓄えのこと」の割合が32.2%となっています。(回答者数=385)



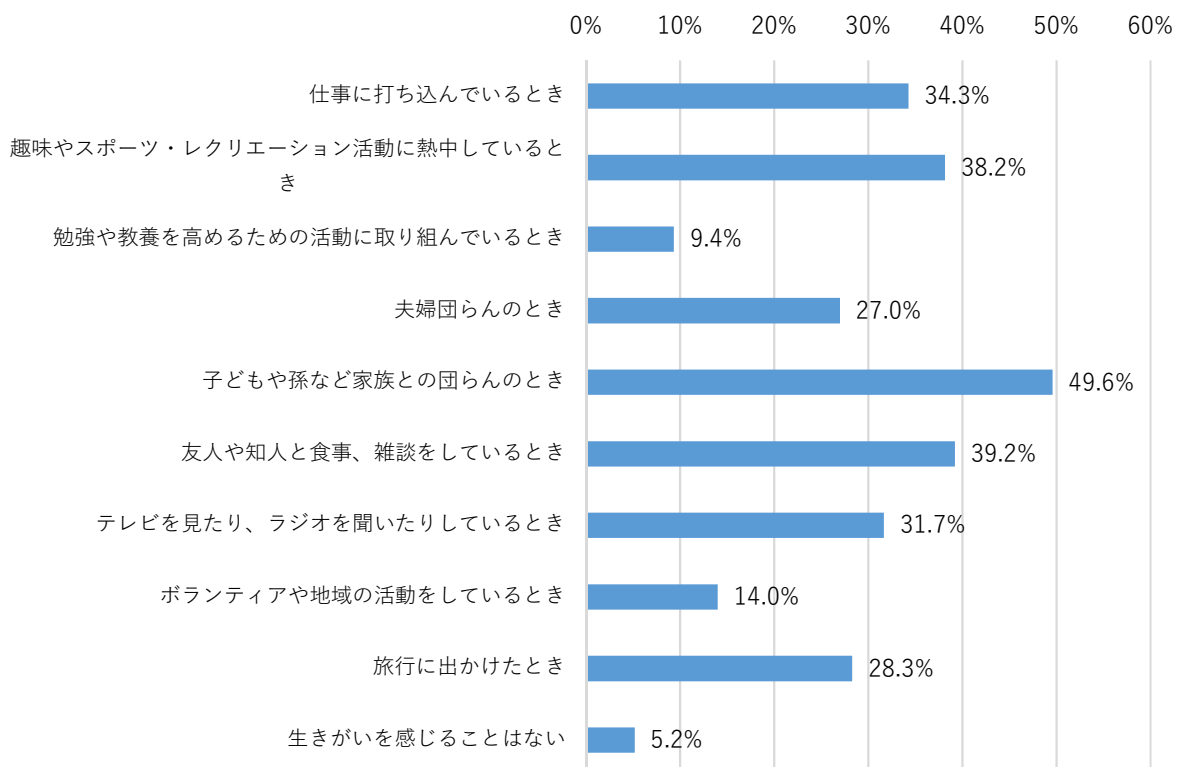
④ 生きがいについて

生きがいをどの程度感じていますかについて、「多少感じている」の割合が37.7%と最も高く、次いで「十分感じている」の割合が27.3%、「あまり感じていない」の割合が14.8%となっています。(回答者数=385)



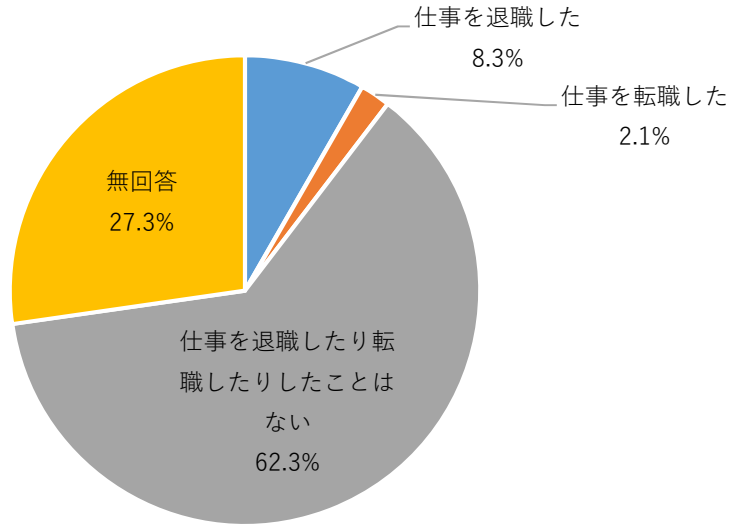
⑤ 生きがいを感じるタイミングについて

生きがいを感じるのはどんなときかについて、「子どもや孫など家族と団らんのとき」の割合が49.6%と最も高く、次いで「友人や知人と食事、雑談をしているとき」の割合が39.2%、「趣味やスポーツ・レクリエーション活動に熱中しているとき」の割合が38.2%となっています。(回答者数=385)



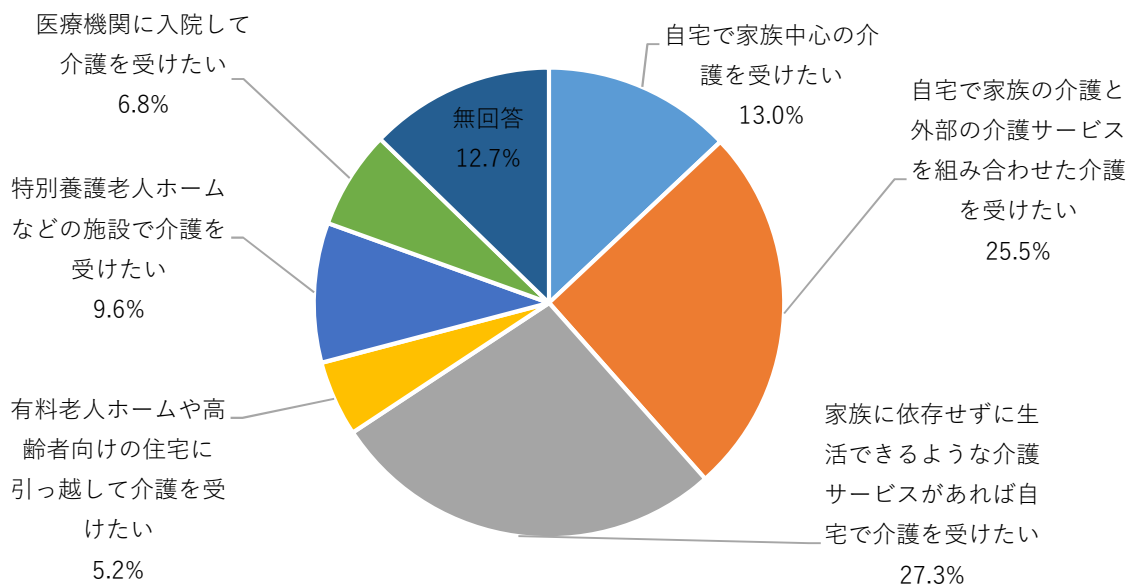
⑥ 家族の介護について

家族（両親や配偶者など）の介護を理由に仕事を退職したり、転職したりしたことがあるかについて、「仕事を退職したり転職したりしたことはない」の割合が62.3%と最も高くなっています。（回答者数=385）



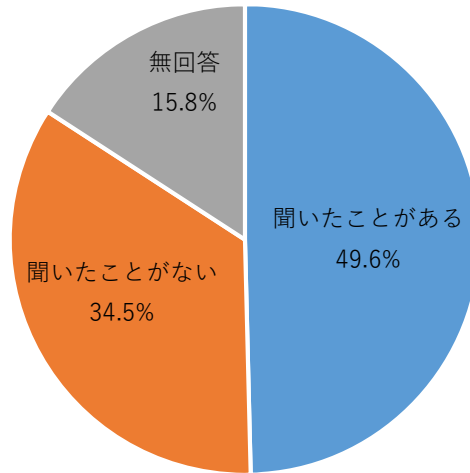
⑦ 介護について

仮に介護を受けることになった場合、どのような介護を受けたいかについて、「家族に依存せずに生活できるような介護サービスがあれば自宅で介護を受けたい」の割合が27.3%と最も高く、次いで「自宅で家族の介護と外部の介護サービスを組み合わせた介護を受けたい」の割合が25.5%となっています。（回答者数=385）



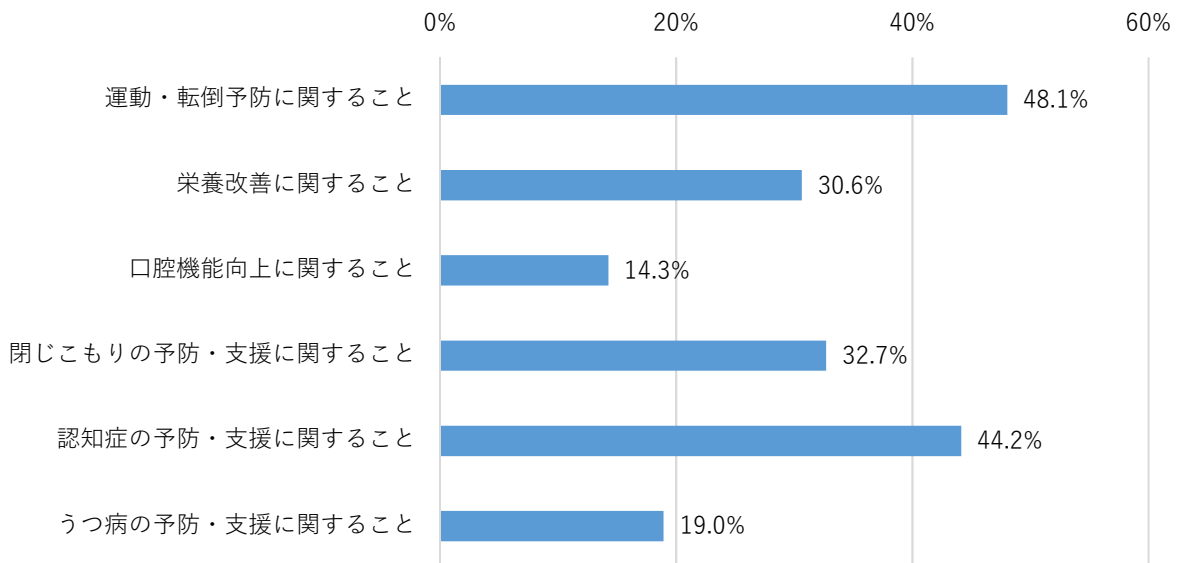
⑧ 介護予防について

介護予防という言葉を知ったことがありますかについて、「聞いたことがある」の割合が49.6%、「聞いたことがない」の割合が34.5%となっています。(回答者=385)



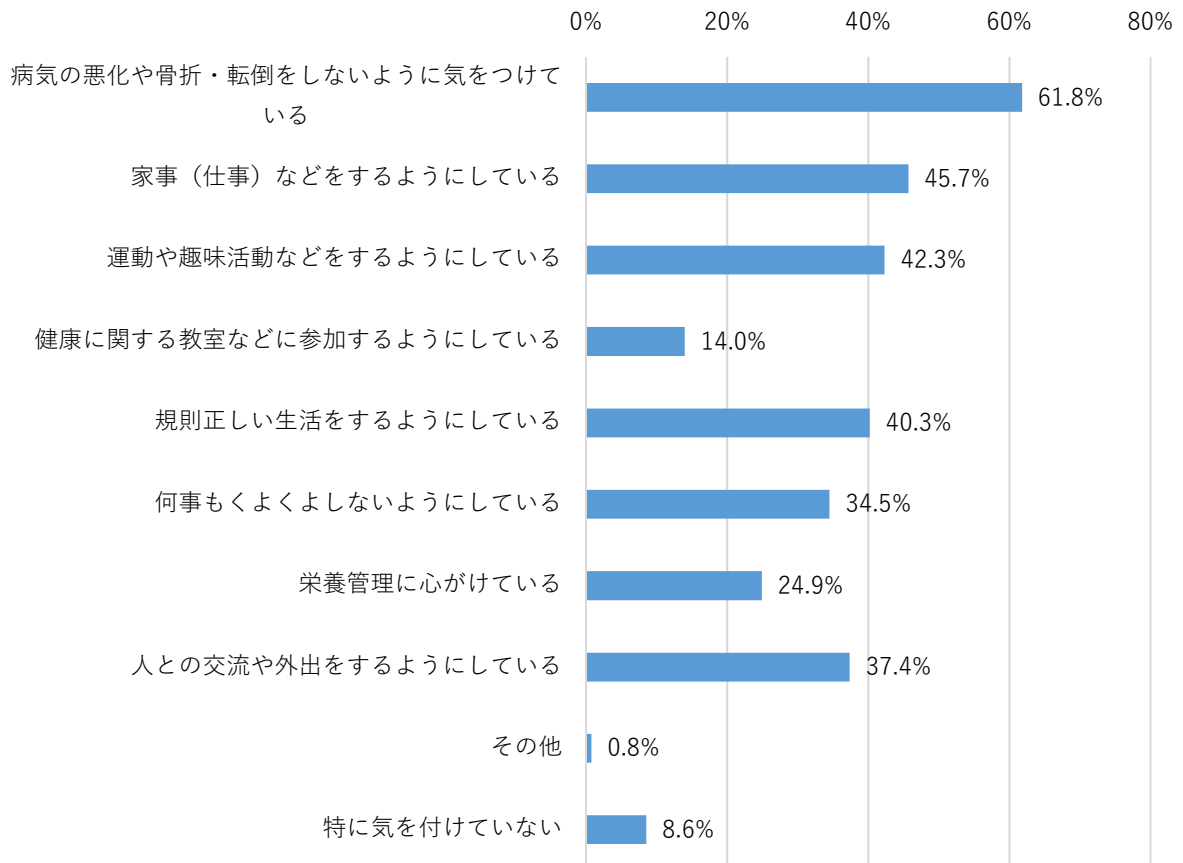
⑨ 介護予防のための取組について

介護予防のための取組で、県や町においてどのような取組に力を入れてほしいかについて、「運動・転倒予防に関すること」の割合が48.1%と最も高く、次いで「認知症の予防・支援に関すること」の割合が44.2%、「閉じこもりの予防・支援に関すること」が32.7%となっています。(回答者=385)



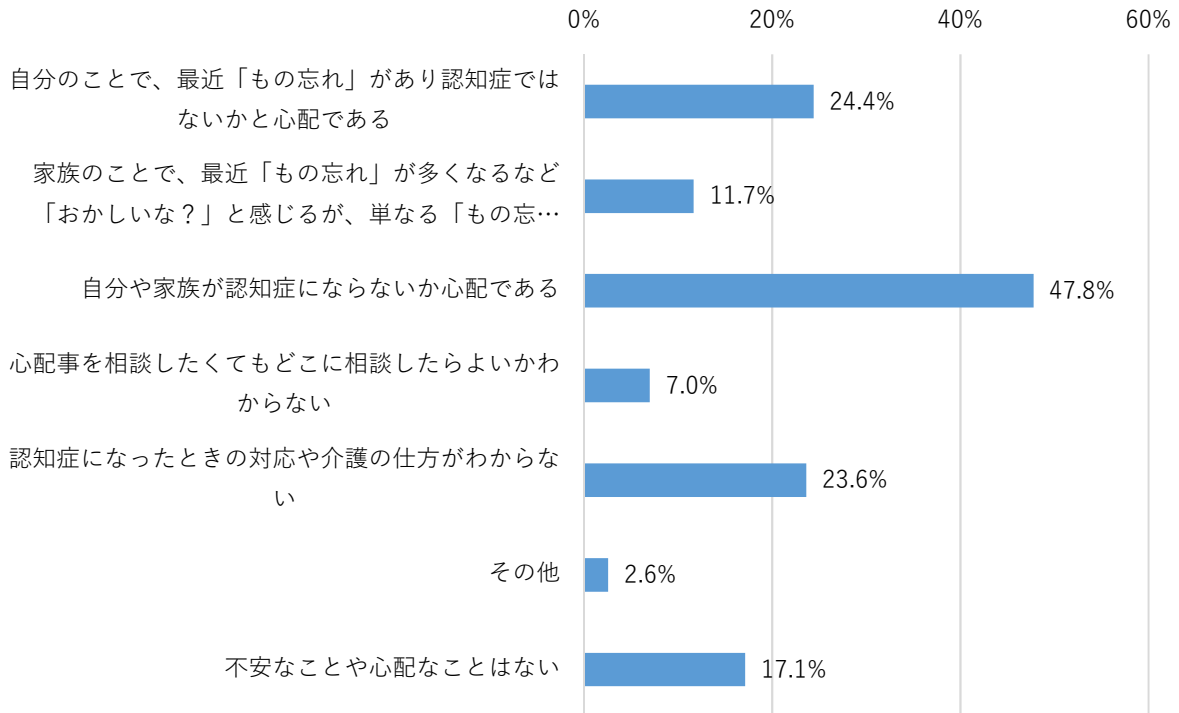
⑩ 日常生活で心がけていることについて

日常生活で心がけていることについて、「病気の悪化や骨折・転倒をしないように気を付けている」の割合が61.8%と最も高く、次いで「家事（仕事）などをするようにしている」の割合が45.7%、「運動や趣味活動などをするようにしている」の割合が42.3%となっています。（回答者=385）



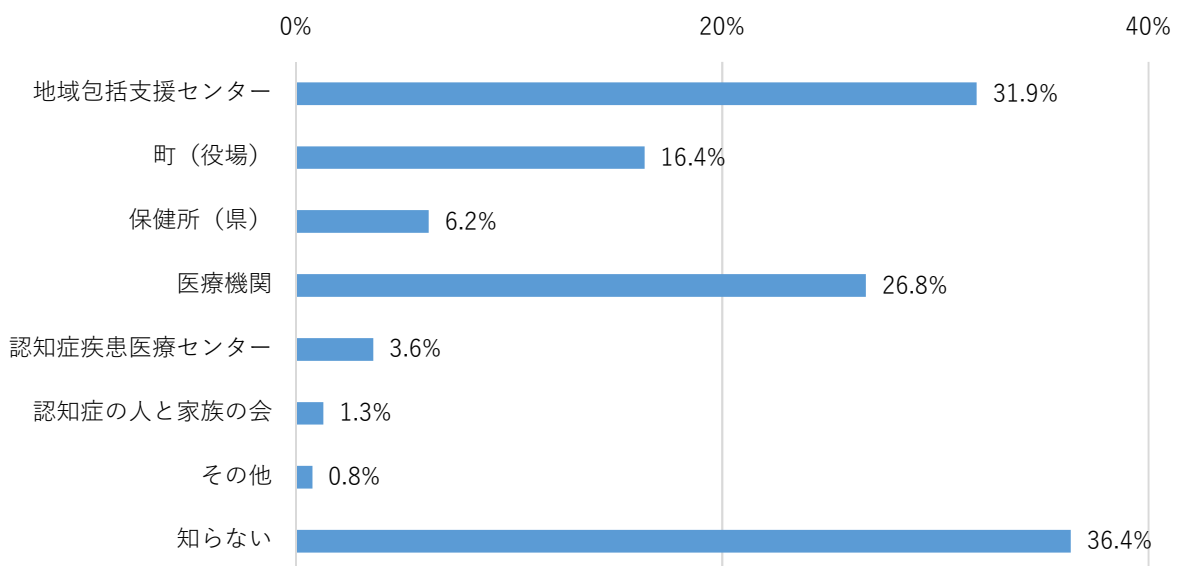
⑪ 認知症について

認知症についての不安や心配なことはどのようなことかについて、「自分や家族が認知症にならないか心配である」の割合が47.8%と最も高く、次いで「自分のことで、最近「物忘れ」があり認知症ではないかと心配である」の割合が24.4%、「認知症になったときの対応や介護の仕方がわからない」の割合が23.6%となっています。（回答者＝385）



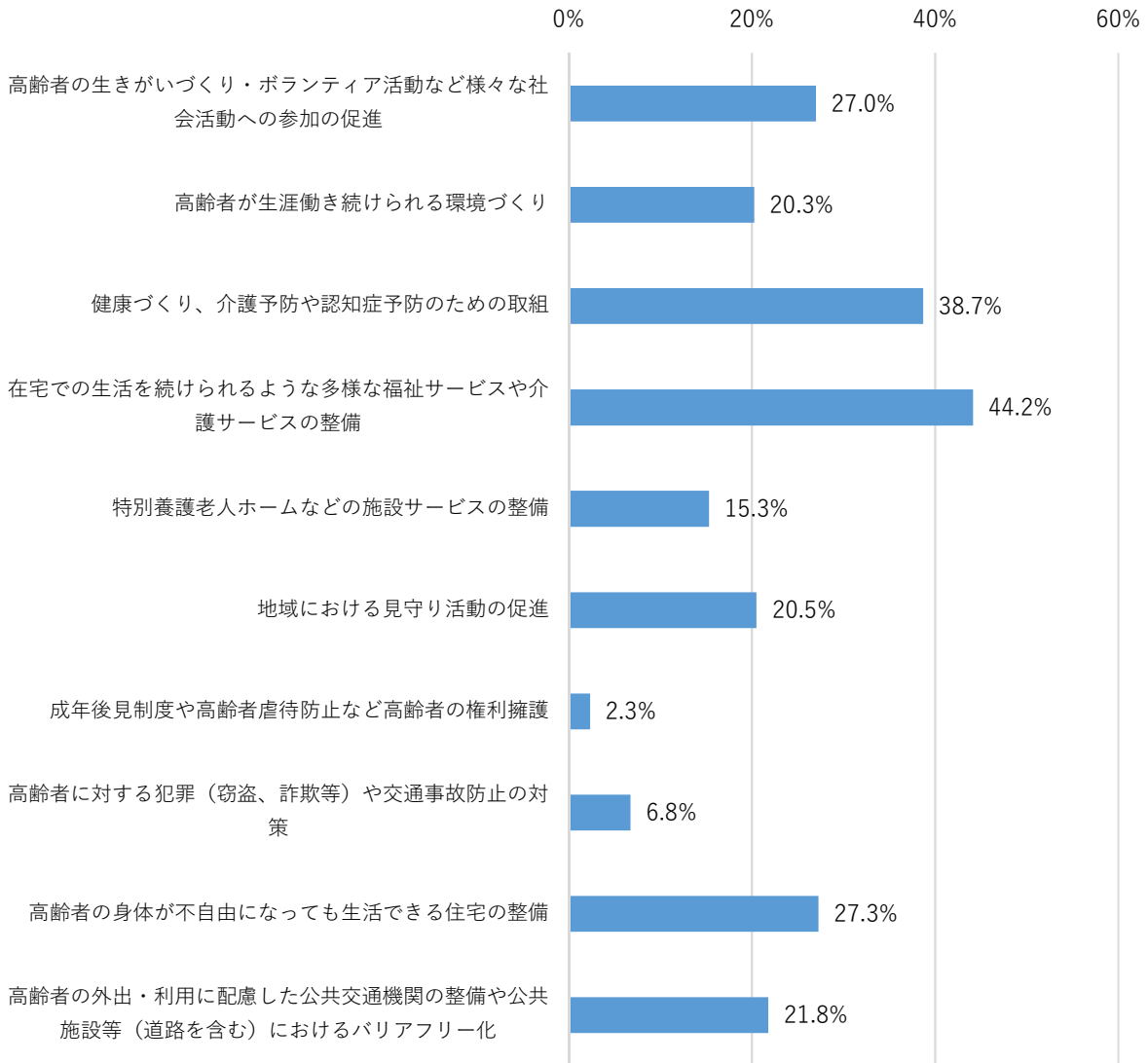
⑫ 認知症の総合窓口について

認知症の相談窓口を知っていますかについて、「知らない」が36.4%と最も高く、次いで、「地域包括支援センター」の割合が31.9%、「医療機関」の割合が26.8%となっています。（回答者＝385）



⑬ 高齢社会への取組について

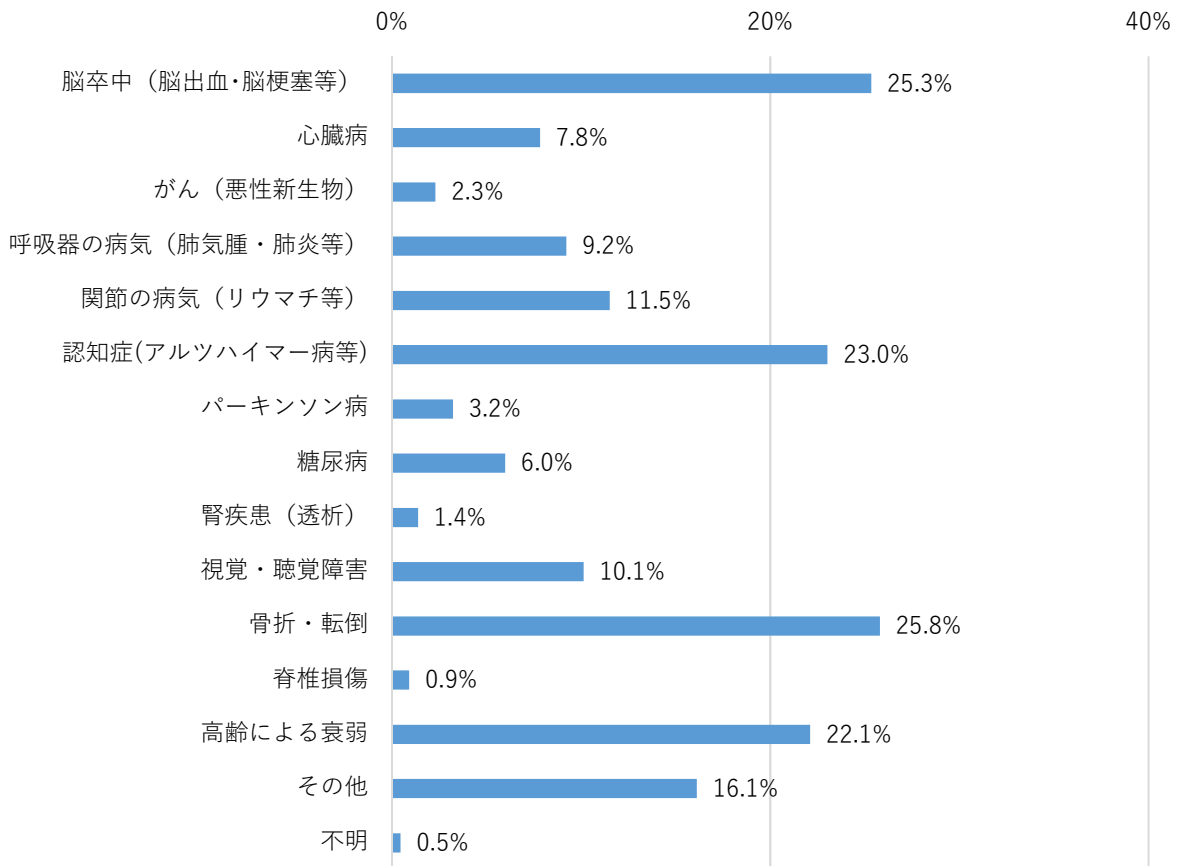
高齢者が住み慣れた場所で安心して暮らしていける地域づくりのために県や町が力を入れるべきことについて、「在宅での生活を続けられるような多様な福祉サービスや介護サービスの整備」が44.2%と最も高い割合でした。



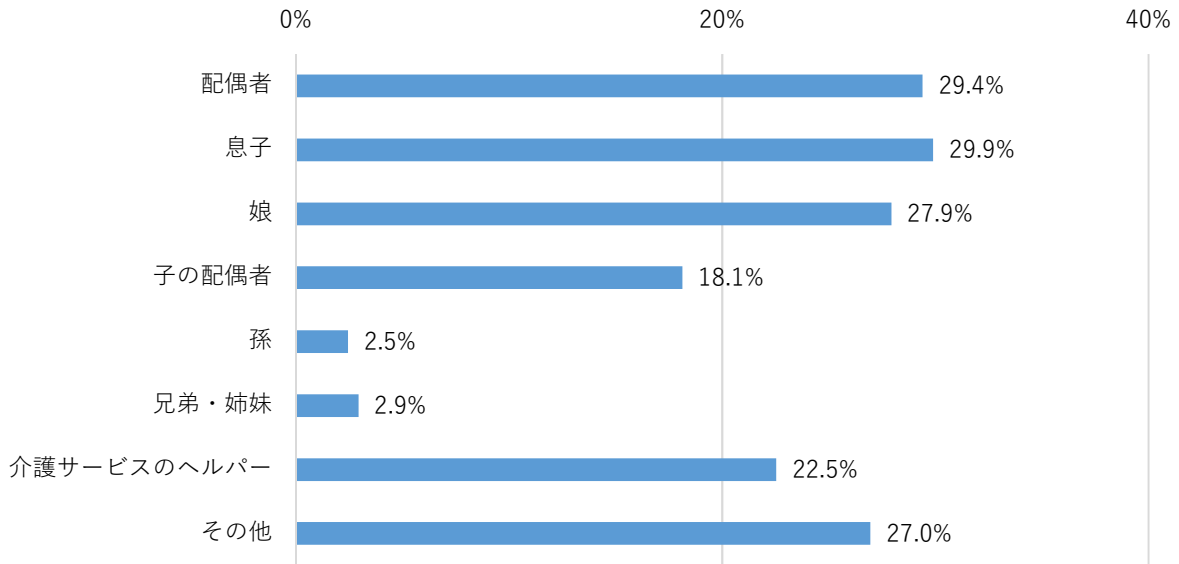
(4) 在宅要介護者

① 家族や生活状況について

ア 介護・介助が必要になった主な要因について、「骨折・転倒」の割合が25.8%と最も高く、次いで「脳卒中（脳出血・脳梗塞等）」の割合が25.3%、「認知症（アルツハイマー病等）」の割合が23.0%となっています。（回答者数=217）

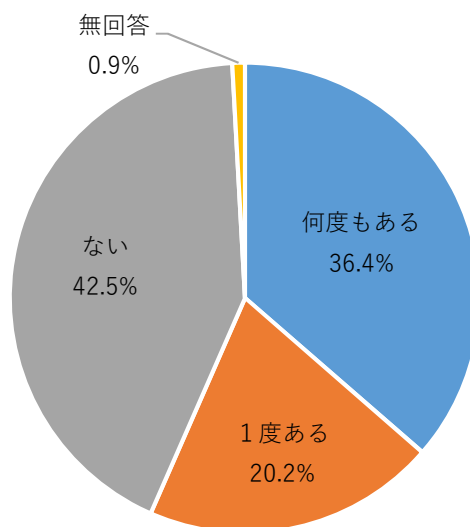


イ 「現在、何らかの介護を受けている」方で、主にどなたの介護・介助を受けているかについて、「息子」の割合が29.9%と最も高く、次いで「配偶者」の割合が29.4%、「娘」の割合が27.9%となっています。（回答者数=204）

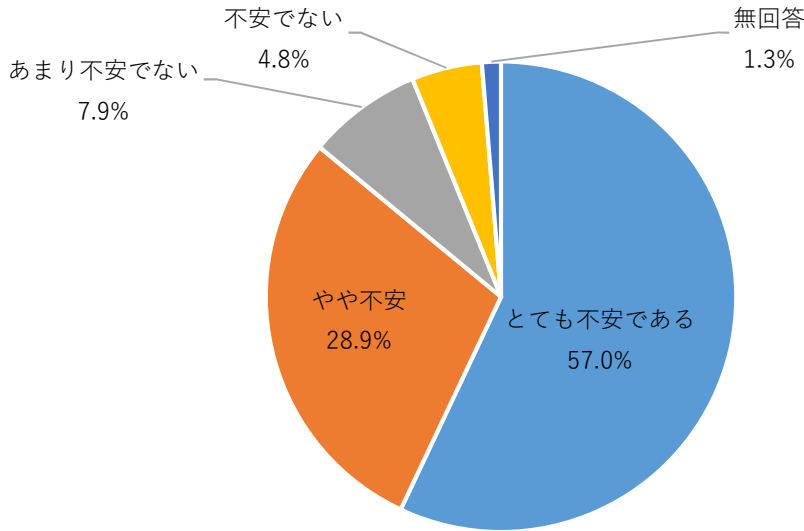


② からだを動かすことについて

ア 過去1年間に転んだ経験がありますかについて、「何度もある」の割合が36.4%、「1度ある」の割合が20.2%、「ない」の割合が42.5%となっています。（回答者数=228）

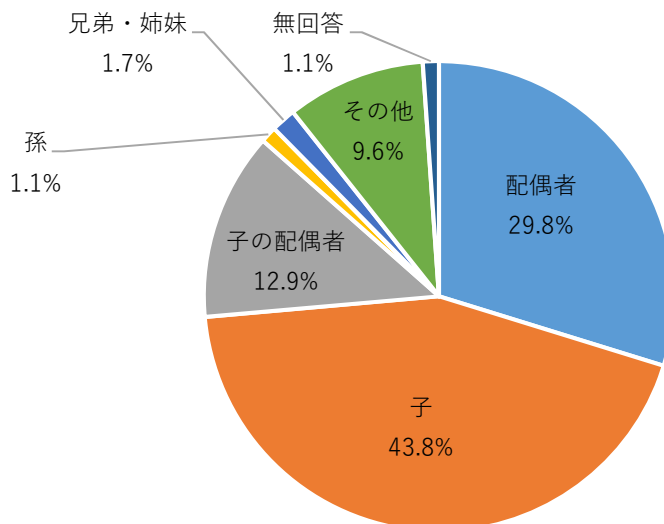


イ 転倒に対する不安は大きいですかについて、「とても不安である」と「やや不安」を合わせると 85.9%となっています。(回答者数=228)



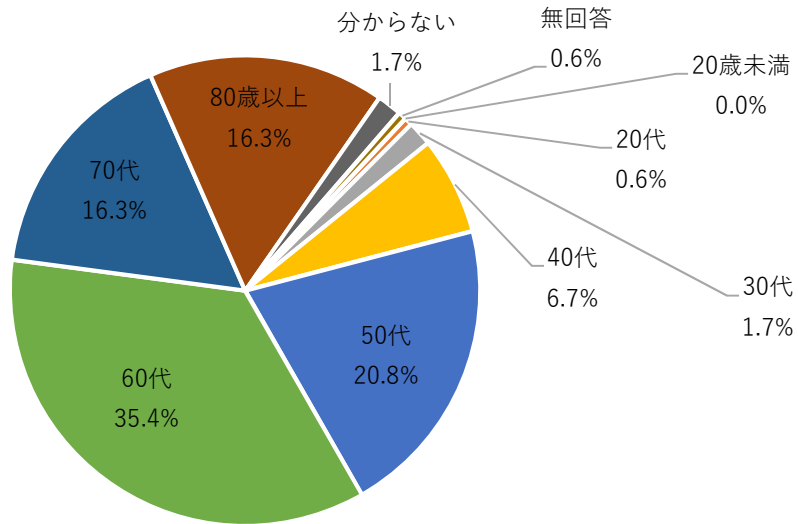
③ 家族・親族からの介護の状況について

ア 主に介護している方はどなたですかについて、「子」の割合が 43.8%と最も高く、次いで「配偶者」の割合が 29.8%、「子の配偶者」の割合が 12.9%となっています。(回答者数=178)



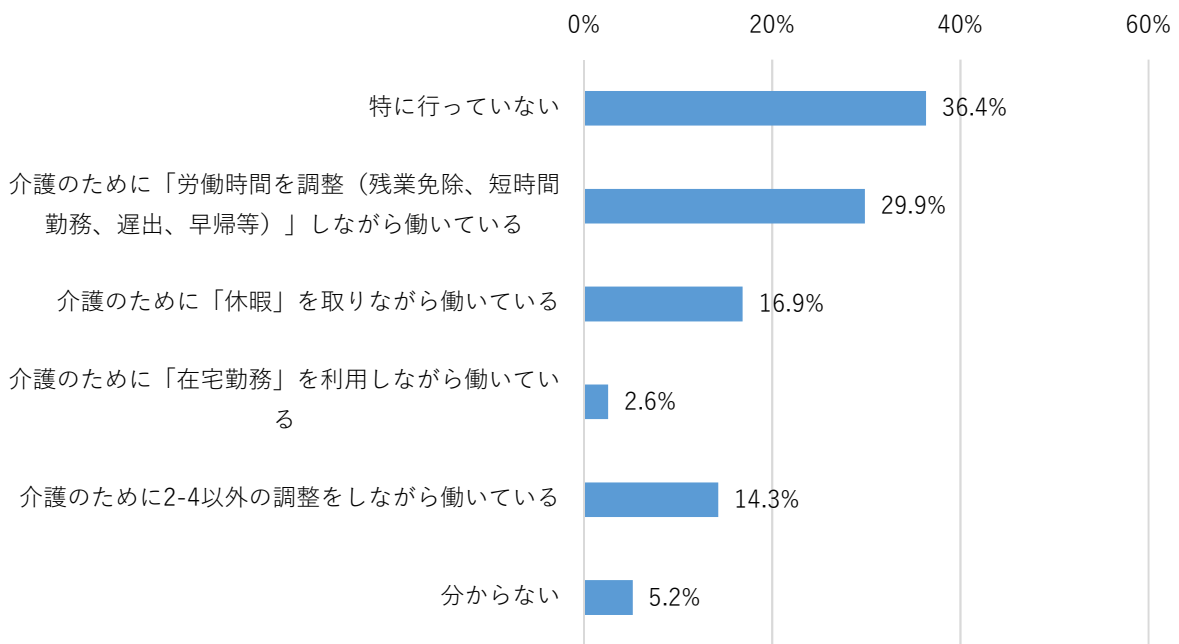
④ 介護者の年齢について

主に介護をしている方の年齢について、「60代」の割合が35.4%と最も高く、次いで「50代」の割合が20.8%となっています。(回答者数=178)

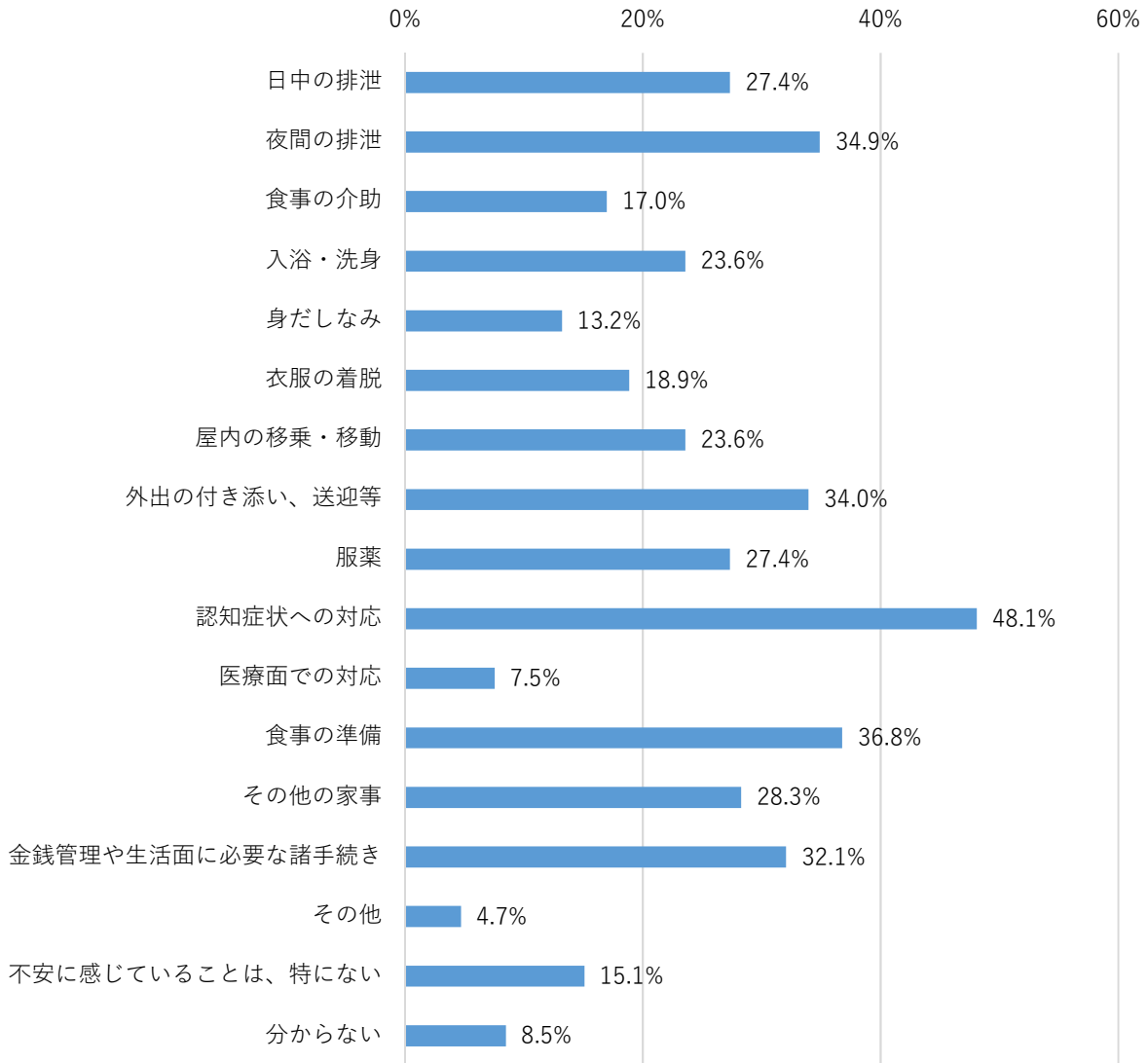


⑤ 介護者について

ア 介護をするにあたって、働き方を工夫していますかについて、「特に行っていない」の割合が36.4%と最も高く、次いで「介護のために「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅番、早帰等）」しながら働いている」の割合が29.9%となっています。(回答者数=77)

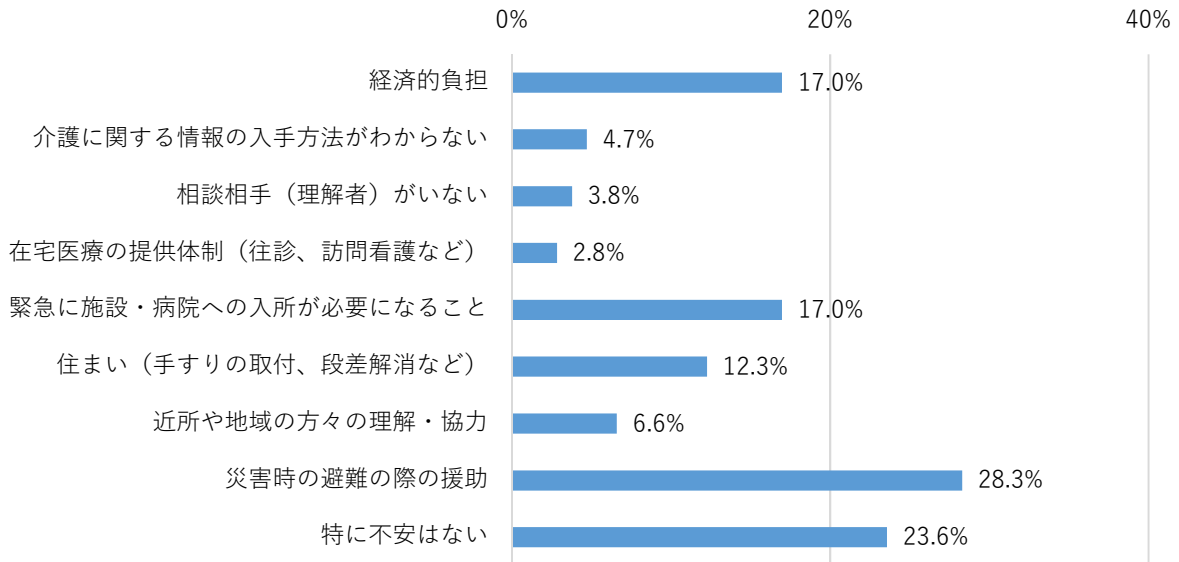


イ 現在の生活を継続していくにあたって、介護者の方が不安を感じる介護等について、「認知症への対応」の割合が48.1%と最も高く、次いで「食事の準備」の割合が36.8%、「夜間の排泄」の割合が34.9%となっています。(回答者数=106)

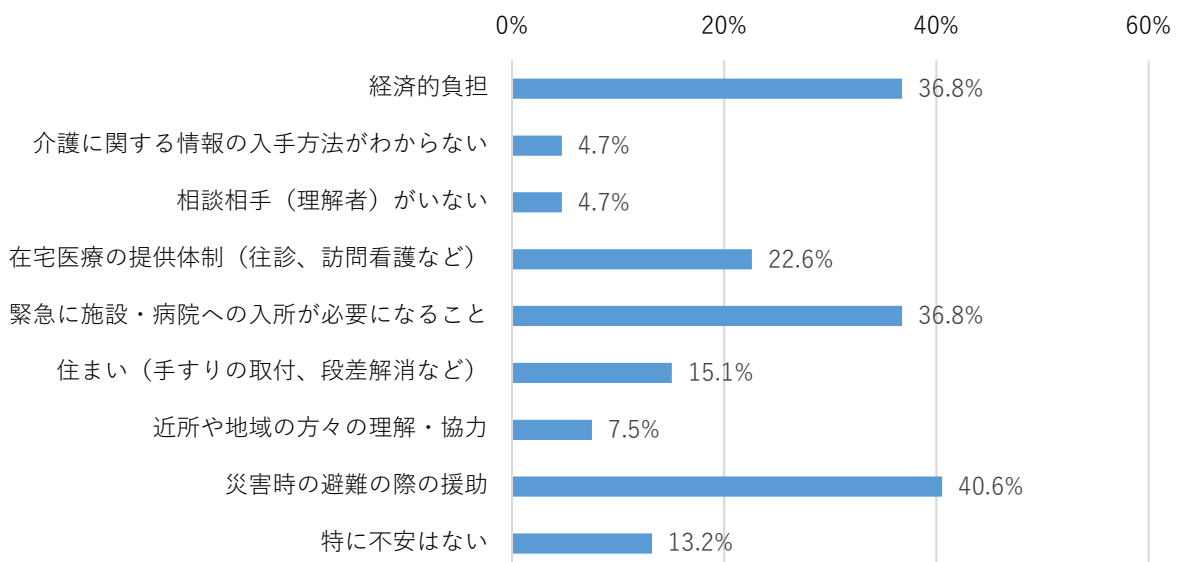


ウ 在宅での介護を行う上で、現在困っていることや将来の不安はありますかについて、両方において「災害時の避難の際の援助」の割合が最も高くなっています。(回答者=106)

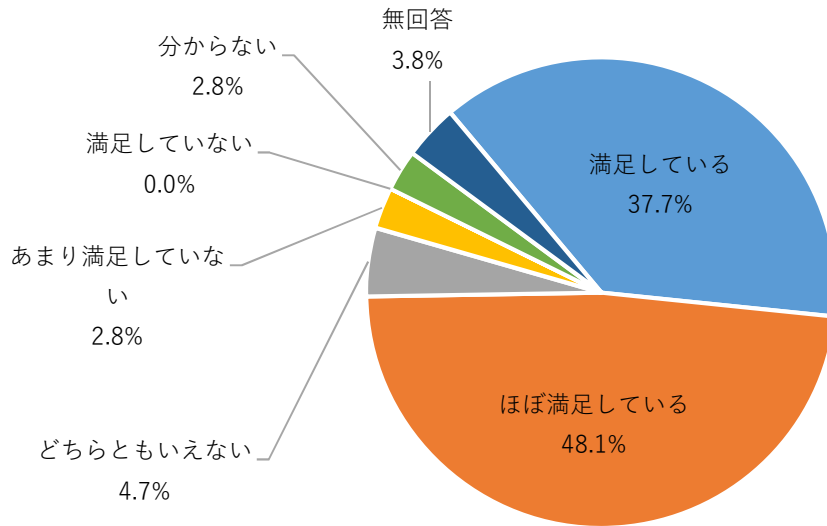
【現在の困りごと】



【将来の不安】



エ 介護をする立場として、要介護者（要支援者）が現在利用しているサービスの満足度について、「満足している」と「ほぼ満足している」を合わせた割合が85.8%となっています。（回答者＝106）



オ 今後どのように介護を行っていきたいと考えていますかについて、「家族を中心に在宅で介護を続けたい」と「介護保険サービス等も利用しながら、在宅で介護したい」と「地域の方々の手助けや介護保険サービス等も利用しながら、在宅で介護したい」を合わせた割合が72.6%、「施設へ入所させたい」の割合が19.8%となっています。（回答者＝106）

